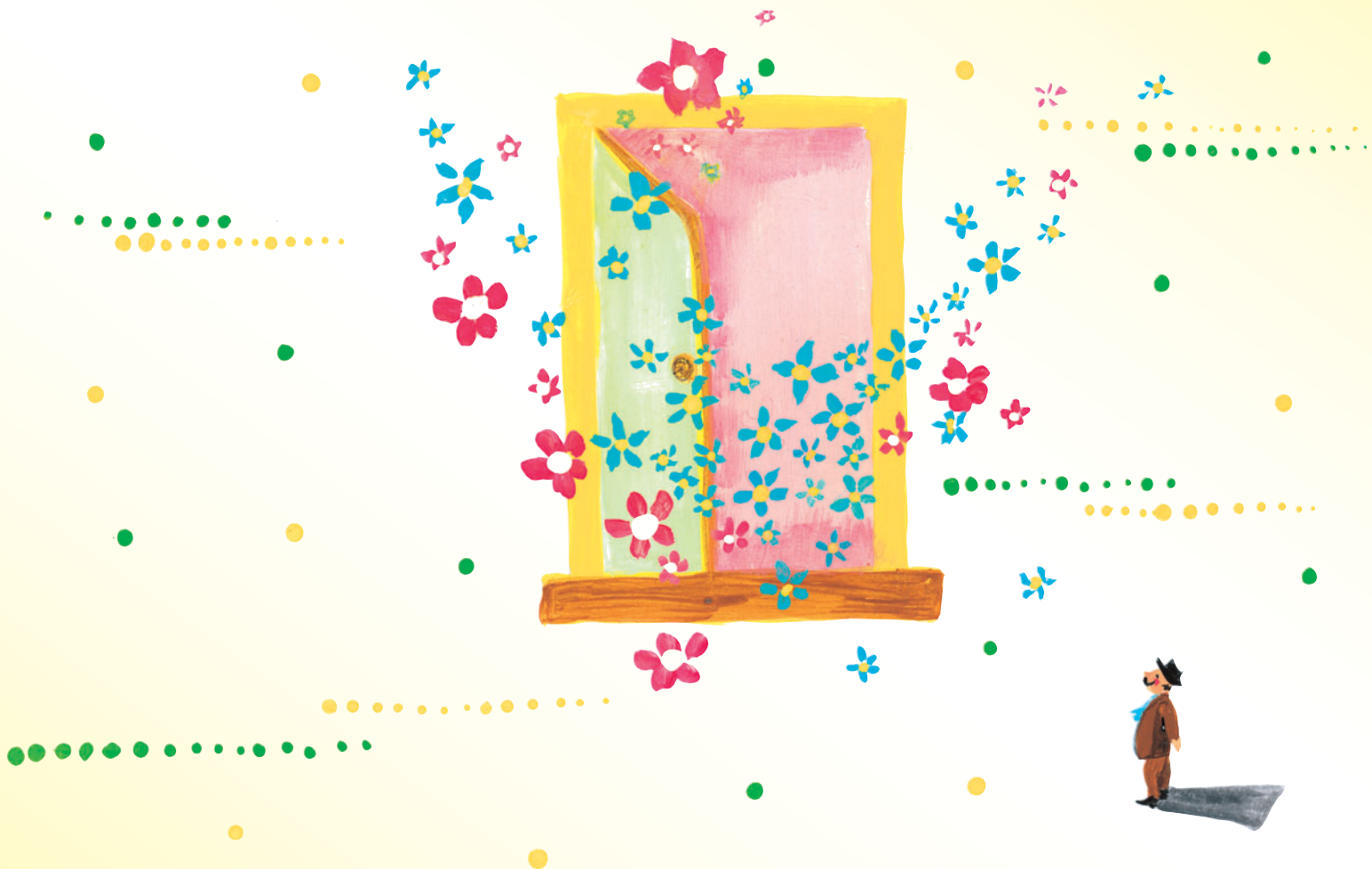


エフ・ウェイブ

f・wave

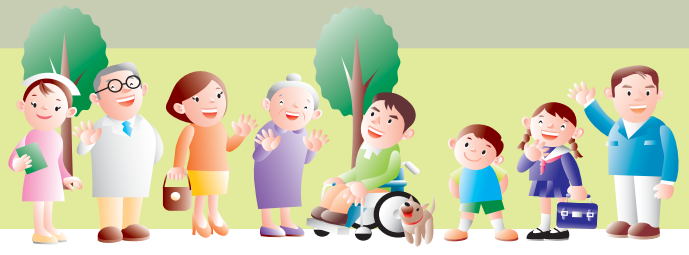


特集1

あなたを待っている人がいます！

特集2

地域の人と共に ～夏のボランティア体験談～



「ボランティア」と聞いてどんな事を思い浮かべますか？
人それぞれいろいろなことを思い・考えるでしょう。

ボランティアは人と人が支えあう自然な姿です。

新たなコミュニティで 助け合いの社会を

社会は変容してきました。大家族から会社員の夫と専業主婦、さらに夫婦共働きの家庭が一般化して来ました。住民同士の触れ合いは薄れ、お互いの助け合いも少なくなりました。それは地域社会にとって災害や犯罪に対する脅威にもなります。

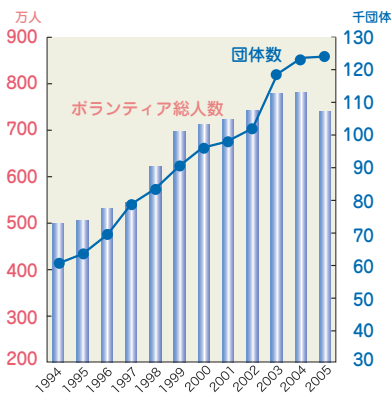
時代に合う新たな形での住民の連帯とお互いの助け合いを持つ社会が必要になりました。地域の様々な体育・文化・福祉等の活動は、一つの居心地の良いコミュニティです。それらへの参加や新たな活動の開始は住民の連帯を強化し、地域を活性化します。それは地域の安全と福祉の面からも重要なこととです。

増加する日本のボランティア活動

ボランティアの先進国といわれるアメリカとイギリスは2人に1人がボランティア活動に参加していると言われています。近年、日本でもボランティア活動をする人や団体が増加していま

す（図1）。阪神・淡路大震災でのボランティア活動は多くの人に感銘と共感を与えました。活動している人は生きがいや人とのふれあいによる充実感を、被災者は人への感謝と信頼を語りました。多くの人が助け合いの大切さを再発見したのです。

図1 ボランティアの団体数と人数



活動の内容

ボランティア団体・人の活動内容を図2で示します。図中の「テーマに沿った活動」の内容は、環境保全・自然保護（20%）、まちづくり（15%）、伝統文化の継承や芸術の普及（13%）、防災・安全（5%）などです。

図2 ボランティアの活動内容

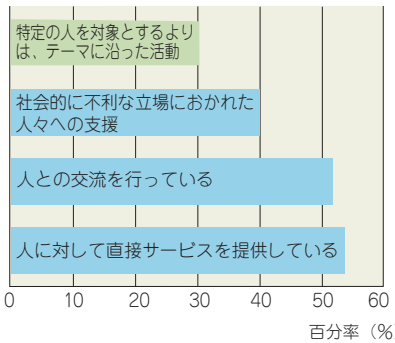
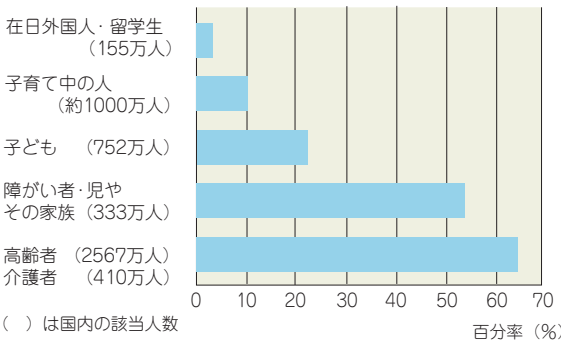


図3 図2の人に対する活動の対象者別割合



動です。その対象者を図3に示します。子どもや子育て中の人たちに対する支援が少ないことがわかります。

資料：全国社会福祉協議会：全国ボランティア活動者実態調査・あきる野市社会福祉協議会：調査資料・経済企画庁：国民生活白書 平成12年度

あなたを待っている人がいます

若年世代は高齢世代に対して年金や税

期待される団塊世代

あきる野市のボランティア登録人口

		2006年度	2007年度
あきる野市 社会福祉協議会	個人登録者数	219人	215人
	団体登録数	30団体	32団体
あきる野市役所	生涯学習支援	159人	148人
	ファミリー・サポート・センター	93人	101人

活動の内容は「特定のテーマに沿った活動」が17団体で、「ダンス」「手話・点字」「介護」「自然環境」等を学ぶ活動です。一方、「人を対象にした活動」は26団体（前記17団体での並行実施を含む）で、活動内容と対象者を図5に示します。子育て中の人や児童・生徒を対象にした活動が少ないことが気になります。ボランティア人口が増えて、これらの領域での活動が期待されます。

表からあきる野市のボランティア人口は1500人程度だと推計され市人口の約2%弱です。ちなみに国のレベルでは800万人で、人口比で6%強です。又、社協に登録した個人ボランティア（図4）は50～60歳代の女性で約半数を占め、男性は21%に過ぎません。

あきる野市では

金等の高負担に不満を抱いています。元氣な高齢者が同世代も、そして世代間の扶助も期待されている時代です。あきる野市での男性高齢者のボランティア登録が少ないことは寂しいことです。社会経験が豊かな定年退職者は地域の貴重な財産です。この方々がボランティア活動に参加することが期待されています。

図5 活動内容と対象者

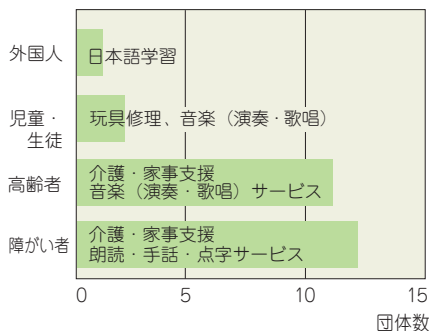
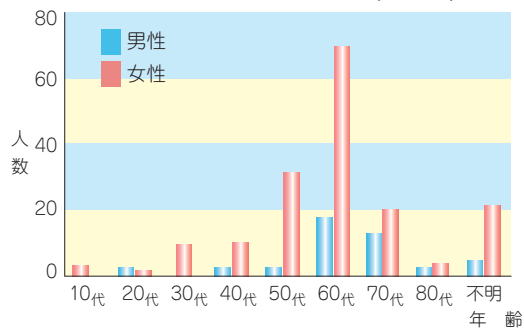


図4 個人登録ボランティアの状況 (2007.7)



ボランティアを始めたいあなたへ

一歩を踏み出すためのチャートです。問い合わせたり、インターネットで調べて自分に合ったものを探しましょう。また、友人や知人は、もうボランティアをしているかもしれません。そんな仲間になるのも・・・

ボランティアを始めるに当たりやりたいことがありますか？

YES

活動を始めましょう！

NO

時間は短い方がいいですか？

本誌8面のちょこボラへ

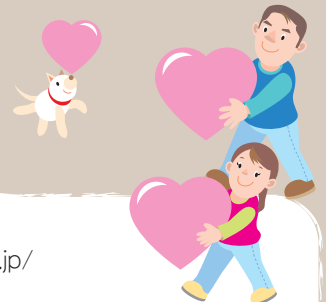
市内での活動を希望しますか？

あきる野市社会福祉協議会
http://www.akiruno-shakyo.or.jp/
TEL : 042-559-6711

東京ボランティア市民活動センター
http://www.tvac.or.jp/
TEL 03-3235-1171

あきる野市教育委員会社会教育課
生涯学習支援者バンク事業
TEL : 042-558-2438

あきる野市ファミリー・サポート・センター（子育て支援）
TEL : 042-550-3855



あきる野市社会福祉協議会

社会福祉協議会で市民活動を推進されている栗原和夫さんにお聞きしました。



くりはら・かずお
あきる野市社会福祉協議会
地域福祉推進課主査

Q 社会福祉協議会とボランティアの活動について教えてください。

A 社協は「安心して暮らせる福祉のまちづくり」が基本理念で、「地域の人と一緒に」その達成に向かって事業を展開しています。その中の一つがボランティア活動です。これは孤立する市民がいない街、市民同士が相互扶助をする社会を築くことです。同時に市民と地域のきずなを深め地域を盛り上げることも目的だと思っています。

Q どのようにして地域の福祉課題を見つけるのですか。

A アンテナを張っています。あきる

野市には50世帯に一人の割合でふれあい福祉委員がいます。この方々が各地域の見守り活動として声掛け運動の中心になっていただいています。児童の見守りや高齢の方との接点づくりとその方の孤立を防止すること、市民の実情や要望等が必要に応じて民生・児童委員、市、社協に連絡してもらっています。そして委員会等で対応策を検討しています。このしくみが福祉の問題と課題の発見に非常に有効です。これが住民相互の助け合い活動の推進にもなっています。ちなみに全国各地からこの制度についての問い合わせが多くあります。

Q ボランティア活動の対象になる人は障がい者や高齢者が多いのですか。

A 介護保険との関係や活動の歴史の面もあり、それらの方々を中心に現在まで展開してきました。活動の内容も変化しています。現在の介護保険制度だけでなく、それにプラスして、その人らしく暮らせるように工夫した支援が大切です。ボランティアによる介護活動は、各個人の個性や生き方を尊重することを目指して歩んできています。

Q 子育て中の親への支援や、子どもの安全な居場所（遊びや勉強）づくりのボランティア活動も必要になってきますね。

A ふれあい福祉委員会の席で関連する話が出ているようです。社協としても市民のニーズに対応することは必要だと思っています。母子家庭には、子どもの勉強を教えるボランティアの派遣はしているのですが…。どんなことをすれば良いのか調査も必要ですね。必要とされる声があれば、支援を検討していきたいと思います。

Q ボランティア活動の今後についてはどうですか。

A これからも市民の要望を的確に捉えること。そしてその展開についての調査研究も必要だと考えています。

また、少子高齢の時代になり、子育てと介護は世代を超えた扶助が重要になってきています。定年退職された方々の力が必要です。ボランティアや地域の行事への参加をぜひ、お願いしたいと思っています。どうぞ社協に相談に来てください。

【ひとこと】福祉は自助・共助・公助の地域力でしょう。居心地の良い地域を造る為に住民同士が支え合いたいものです。

ボランティア団体を尋ねて・・・

ウィルチェアダンス研究会『あおい』

車いすダンス

毎週土曜日午後2時～4時、日の出福祉園（日の出町平井）体育館にて車いすダンスが行われています。女性12名の団体で、健常者7名と身体障がい者5名が所属。



ワルツ、チャチャチャ、ルンバ、タンゴなどを踊る皆さん

車いすダンスとは？

ドライバー（車いすに座る人）とスタンディング（立つ人）の二人一組が向かい合い、手を取り合うことからダンスは始まります。胸を張り腕を上げる姿勢で踊るため、上がらなかった腕が少しずつ上がるようになった人もいます。

きっかけ

車いすダンスの指導員資格を持つ岩河さんが、ご自身で1台目の専用車いすを購入。社交ダンス教室に通う友人に声をかけ、4年前に会を立ち上げました。「障がいのある方々の目の輝きと笑顔が見られ、ライフワークにしたいと思っています。良いスタッフに恵まれ、前進あるのみです」と岩河さん。

生き生きと

「踊る前と後では、顔の表情が違うのが見て取れます。音楽とダンスによって、体も気持ちも軽くなるからでしょう」「私も車いすの方も共に楽しいことが何よりうれしい」「私自身、元気をもらっています」「一人ひとりの障がいや体調に合わせて踊り、無理をしないように気を付けています」とスタンディングの方々。またドライバーの方々も「優雅に踊るのがとても楽しい」「これからも踊っていきたい」と生き生きとした表情で話しています。

これから

現在、会で所有するダンス専用車いす（より軽量で値段が高い）は3台。数が足りないため、一般の車いすも利用し踊っています。5人全員分をそろえようと資金調達に奔走中です。

さらに「障がい者の方だけでなく、足や腰の痛い方や家にこもりがちなお年寄りも出てきてほしい。車いすに乗ることとダンスが楽しめることを伝えたい」と皆さん。また「ドライバーのためにスタンディングの人数も増やしたい」と話していました。

（問い合わせ先） 042－558－1471（秋間さん） / 090－6038－6597（岩河さん）



毎年行われている社協主催の夏のボランティア体験談です

みんなおばあちゃんにお弁当をとどけた。配食ボランティアのおじさんがやさしくむかえてくれてうれしかった。とどけたらみんなおばあちゃんが「ありがとう」と言ってくれたことが一番うれしかった。
（小学3年生）

どろんこあそびができたり、アンパンマンの小さなプールであそんだり、とてもかわいくって、楽しかったです。2日目からは本当になついてくれて、「おねえちゃん、本よんで?」「いっしょにあそぼ」ときてくれて本当にうれしかったです。最後の日、なみだがポロポロでできました。来年もボランティアやりたいです。
（小学5年生）

おじいさんたちが「ありがとう」ってにこにこしながら言ってくれました。それがとてもうれしかったです。また夏ボラやりたいです。
（小学3年生）

みんな顔を見てくれてやさしくわらってくれてよかったです。ぼくたちのエネルギーでおじいちゃん、おばあちゃんが元気になるといいです。
（小学5年生）

おばあちゃんと、あくしゅをしてうれしいです。よろこんでくれて、よかったです。（小学1年生）

居心地のいい地域づくり

千田洋子さん

(いずみの会生活学校会長)



せんだ・ようこさん 1982年にいずみの会設立、今年25周年

PTA会長から

いずみの会へ

35年前、長女の喘息のため都心からあきる野に転居してきました。空気のよい環境で長女の喘息は治りました。

活動の始まりは、小学校のPTAです。役員は地元名士ばかりの男社会。その男性たちから推薦されてPTA会長を2年務め、いい仲間がたくさんできました。

「一回限りの人生だから、より豊かに生き、自分を高めるために学んでいきましょう。」と千田さんはPTAOGや現役に

声を掛け、いずみの会が発足したのは25年前のことでした。

女性の自立に向けて

1985年千田さんは、NGOフォーラム世界女性会議に東京代表の一人として出席。女性議員が多く活躍する国、花嫁を持参金で売り買いする国等、貴重な情報を得ました。「女性が男性と肩を並べていくには、女性自身ももっと勉強し、お互いを高めあい、自立する必要がある。」と痛感しました。

帰国後、女性情報誌発行に

携わりました。また、女性の自立支援にワープロ講座、ヘルパー資格取得講座を開催しました。

ささえあつて

その後、社会福祉協議会で働くことになり、青少年福祉教育を担当。子どもたちに優しさを体験してもらうため、ボランティア体験講座を多数企画しました。

そのとき、参加した一人の中学生は「おれなんかどうせ…」という態度でしたが、老人施設でお年寄りに接するたびに「ありがとうよ。ありがとう」と言われ「おれ生まれて始めてありがとうと言われた」とびっくり、それから彼の態度が変わりました。

「人は、支えあつて生きている。自分がここに住んで良かった！と誰もが思える居心地のいい地域をつくること、これが活動の原点。他人を思いやる優しさ、これが活動の原動力。」と千田さん。

いずみの会生活学校

南秋留地区で25年間、勉強会、福祉、子どもたちへの支援、高齢者問題、消費者問題、議会傍聴、男女平等社会づくり、多面にわたり活動している団体

- ・会員 南秋留小学校PTAOGを中心に約百名
- ・趣旨 地域は自分たちが生きていく場所。居心地よく一生を過ごすため、自分が学んだことを地域に還元し、生かす。(千田さんの言葉より)
- ・活動内容の一部 ワープロ講座、ヘルパー資格取得講座、地球環境問題への取り組み(スーパーレジ袋削減実施。森林保護環境カルタを製作し、子どもたちやお年寄りを通して啓発活動)、小学校での本の読み聞かせ、みそ作り・昔遊び等の指導。

※そのほか、会の趣旨に沿うものなら範囲を限定せずに活動するのが特徴



手の込んだ「切り絵カルタ」



子育て世代が考える 団塊の世代のボランティア

うれしかったこと

助かったこと

小学校の通学路に立ち、登下校時の子どもたちに声をかけてくれる防犯ボランティアの方々。地域の方に見守ってもらえて、親子ともども心強く感じています。

やってもらいたいこと

手伝って欲しいこと

放課後や週末の子どもの居場所づくりや見守り。中学生は公園や河川敷、コンビニ、駅前などで集まって話しているだけなのに恐がられてしまうなど、友達同士で話す場所もない様子。居場所として、児童館や学校の余裕教室・体育館・校庭などが地域住民や子どもたちみんなで利用できるというのは？

また、皆さんの豊富な知識や経験を子どもたちや私たちに伝えて欲しいです。郷土の歴史・文化、

昔遊び、工作、実験、講演、職業体験、運動や勉強など。他市では補習教室も行われているそうです。

ボランティア用語

NPOとNGOとは？

NPO法（特定非営利活動促進法）が98年に制定され、最近よく使われるようになりました。それまで、営利を目的とせず公益のために活動する民間団体（ボランティアグループ）は、法的な組織としては認められていませんでした。そのため、グループ名で活動に必要な事務所を借りたり、電話を引く、保険に加入する、銀行口座を開設するといったことが認められずにすべて個人名にせざるを得ない状況でした。法人化することでこれらのことが解決できます。また、活動を安定的に継続させるためには財政面の拡充も大切です。会員個々の会費や寄付だけでは十分な活動が行えません。ボランティアの実績を上げ、外部に寄付や補助を求めるにも法人化することは、信用と言った面でも大きな力となります。

NGO…直訳すると「非政府組織」ももとは国連用語で、国連のユネスコや世界保健機関（WHO）などの政府間機構（IGO）に対する民間組織のことを指します。

基本的な活動精神は、NPOとほぼ同じで、活動フィールドによって区別されています。日本では、国際的な活動をしている組織をNGOと呼ぶケースが多いようです。例として、WWF（世界自然保護基金）、ピースボート、国境なき医師団などが知られています。

結（ゆい）と講（こう）

ボランティアの考え方につながるものとして、我が国でも古くから「相互扶助」が行われていました。

農業が行われるようになると、一つの土地に定着して地域共同体を作って暮らすようになりました。これが「地縁社会」であり、お互いに労働を提供する「結」や「催合（もやい）」という共同作業の慣行です。これらの共同作業は、今も各地に残る伝統であり、社会のための活動という意味では、ボランティア活動の源流でもあります。しかし、自発的な活動というよりは、共同体の中での義務として行われてきました。家々の間で労働力を交換しあって、田植えや収穫時期には、親戚や近所の者同士が手伝い合い、共同で作業を行い、また、家普請や屋根の吹き替えにも助っ人として駆けつけたものでした。こうした相互扶助精神の基に村社会が成立していたのです。

また、中世には「講」という経済上の相互扶助の仕組みが生まれました。金品の融通を図るという一種の金融組合又は相互扶助組織であり、生活の大きな支えになっていました。頼母子講、無尽講の類があります。

これらは、久しく併存していたが農機具の機械化と金融の発達によって人の助けを必要としなくなったためいずれも急速に姿を消しつつあります。

参考資料 「自分スタイルのボランティアを見つける本」（山と溪谷社）
「ボランティアまるごとガイド-参加のしかた・活動のすべて」（ミネルヴァ書房）
宇都宮市社会福祉協議会 HP

ちょこボラ

自分の時間を使って、できることだけをマイペースでお手伝いする
ちょこっとだけやるボランティアです。こんなことをしてみませんか。

買う・使う

- ・点字名刺を持つ(点字の普及)
- ・障がい者や授産施設の人達が作ったものを買う
すき昆布、クッキー、無添加パン、乾燥しらたき、
EMボカシ、梅ジャム、梅びしお など
- ・フェアトレード
(開発途上地域の人々が作ったものを買う)
- ・環境に優しい製品を選ぶ

地球へ

- ・アルミ缶のリサイクル
- ・牛乳パックのリサイクル
- ・マイ箸を持ち歩く
- ・リサイクル商品を使う(再生紙、廃油石けんなど)
- ・レジ袋やラッピング、ブックカバーはことわる

ひとへ

- ・傾聴ボランティア
(お年寄りなどの話し相手になる)
- ・食事サービス(お年寄りへお弁当を届ける)
- ・子どもたちの安全のため、登下校時の見守りをする
- ・ご近所への気配り
- ・途上国の子どものための里親になる
(毎月千円～3千円で1人の子どものが学校へ通えます)

集める

- ・使用済み切手を集め、ボランティア団体へ送る
- ・書き損ねはがき、未使用切手を集め、ボランティア団体へ送る
- ・ベルマークを集め、送る
- ・使わなくなった木綿の布をきれいに洗濯し、
一定の大きさに切って、施設に届ける
(使い捨てぞうきんとして使われる)

連絡先：あきる野市社会福祉協議会 <http://www.akiruno-shakyo.or.jp/> TEL：042-559-6711

Information

インフォメーション

第12回 女と男の

ライフフォーラム in あきる野

- ◆ 日時 平成20年2月17日(日)
午後1時30分から
- ◆ 講師 香山リカさん (精神科医)
- ◆ 場所 ルピアホール
あきる野ルピア(3階)

※詳しくは、「広報あきる野」でお知らせいたします。

あきる野市では、あきる野市男女共同参画計画「あきる野男女共同参画プラン」に基づき施策の推進を図ってきましたが、国における基本計画の改定や、少子高齢社会の進展など、社会情勢の変化に合わせた見直しの必要性やプランのあり方について、市民会議に意見を求めていました。

6月27日に、市民会議から「あきる野市男女共同参画計画改定に向けての提言」として、市長に提出がありました。

提言は、現「男女共同参画プラン」と対比しながら、基本理念のあり方から施策までを具体例を交えて、作成されています。

市では、提言を受けて、あきる野市男女共同参画推進本部において検討していきます。

なお、この提言は、秘書広報課、情報公開コーナー(市役所4階)、五日市出張所、図書館、中央公民館、あきる野生涯学習センター、五日市ファインプラザ、市ホームページで閲覧ができます。

男女共同参画社会の実現をめざして

あきる野市男女共同参画推進

市民会議から提言がありました

編集後記

「生きていくって、ボランティアに徹することなんだ…」

～一編集委員のつぶやき～

◆情報誌編集委員◆

石川 光代・大本 浩子・齋藤 映子・佐藤さち子・
代田富貴子・関口 千恵・平野 博典・中村 則仁
・表紙絵/吉田美沙子



エフ・ウェイブ 第19号 2007年10月発行